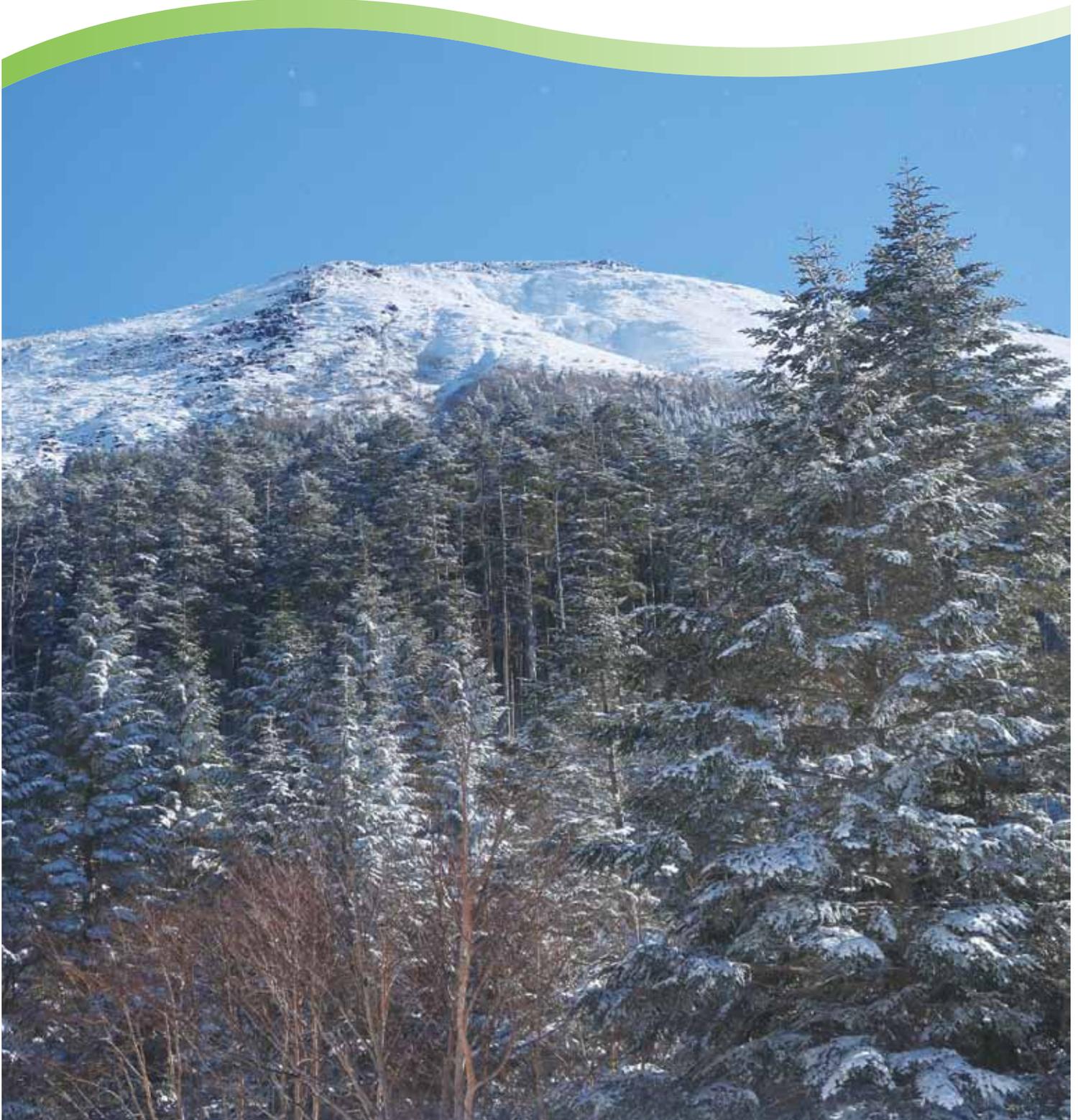




12

2019
No.153

人と森をつなぐ情報誌



八ヶ岳中腹より硫黄岳を望む（長野県）

特集

森林経営管理制度の取組状況について

～動き出した森林シューセキ！～

詳細については「日本美しの森 お薦め国有林」のウェブサイト
(http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/)をご覧ください。



にっぽん
「日本美しの森 お薦め国有林」のご紹介

むこうざかやま

向坂山野外スポーツ地域

ごかせ

「五ヶ瀬ハイランドスキー場」(宮崎県)



【概要】

日本の最南にある天然雪のスキー場として有名な五ヶ瀬ハイランドスキー場は、宮崎県北西部の熊本県との県境、標高約1,600mの向坂山山頂付近に位置し、グレンデ上部からは、霊峰国見岳や秀麗な山容の市房山、阿蘇五岳や九重連山などの大パノラマを満喫できます。南国宮崎とはいえ、毎年12月上旬には滑走が可能で、近年では若いスノーボーダーにも人気の高いスキー場です。

また、周辺の森林は暖温帯の常緑広葉樹をはじめブナやミズナラ等の落葉広葉樹、亜高山帯のモミ・ツガ等の針葉樹が分布しており、標高によって植生が変化する様子も楽しむことができます。

【見どころ】

グレンデは向坂山の北斜面に位置し、最大傾斜30°のハードバーンが待つダイナミックコース(650m)、クルージングを楽しめるパラダイスコース(1,000m)、子供が雪遊びをできるファミリーグレンデがあり、スノーボードは全面滑走可能です。ハードなトレーニングからのんびりクルージング、家族での雪遊びまで、バラエティ豊かにお楽しみいただけるコースレイアウトとなっています。

晴天時には、阿蘇五岳や九重連山をはじめ、九州中央山地の大パノラマと美しい樹氷が観られる絶好のロケーションです。朝一番の“大雲海”は、きっとあなたのココロを幸せにしてくれることでしょう。

【イベント等】

シーズン中は、クリスマスイベント(12月)をはじめスキーの日イベント(1月)、バレンタインイベント(2月)などが開催されます。最新のイベント情報は公式ホームページをご覧ください。

五ヶ瀬ハイランドスキー場公式HP：<http://www.gokase.co.jp/ski/>

※2020シーズンは、令和2年3月1日(日)までとなっています。



【アクセス等(車の場合)】

- ・JR日豊本線延岡駅から約80分
- ・宮崎市から約150分 福岡市から約150分 熊本市内から約90分
- ・スキー場入口の本屋敷駐車場からリフト近くのパーキングセンター駐車場まで無料シャトルバスが運行しています。



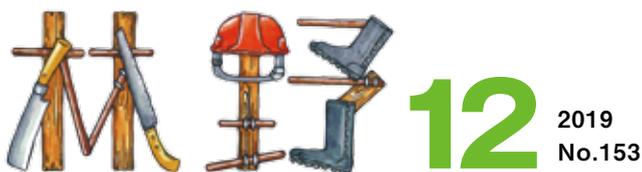
大パノラマ



樹氷と大パノラマを満喫



南国宮崎の樹氷



Contents

- 03 **特集** 森林経営管理制度の取組状況について ～動き出した森林シューセキ！～
- 08 TOPICS 01 学校の森・子どもサミット
- 10 人材育成の現場から みやざき林業大学校／くまもと林業大学校
- 12 日本の林業遺産を知ろう！ 十勝三股の林業集落跡地と森林景観
- 14 国有林野事業の取組 持続的な森林経営に向けた低コスト造林への取組 ～目指せ下刈りゼロ～
- 16 TOPICS 02 第58回農林水産祭
- 18 TOPICS 03 「Forest Style ネットワーク」立ち上げ!! -「森林サービス産業」の創出・推進に向けて-
- 19 みどりの女神が行く！
- 20 木材利用優良施設コンクールの受賞施設決定！今年度、新たに国土交通大臣賞、環境大臣賞を創設

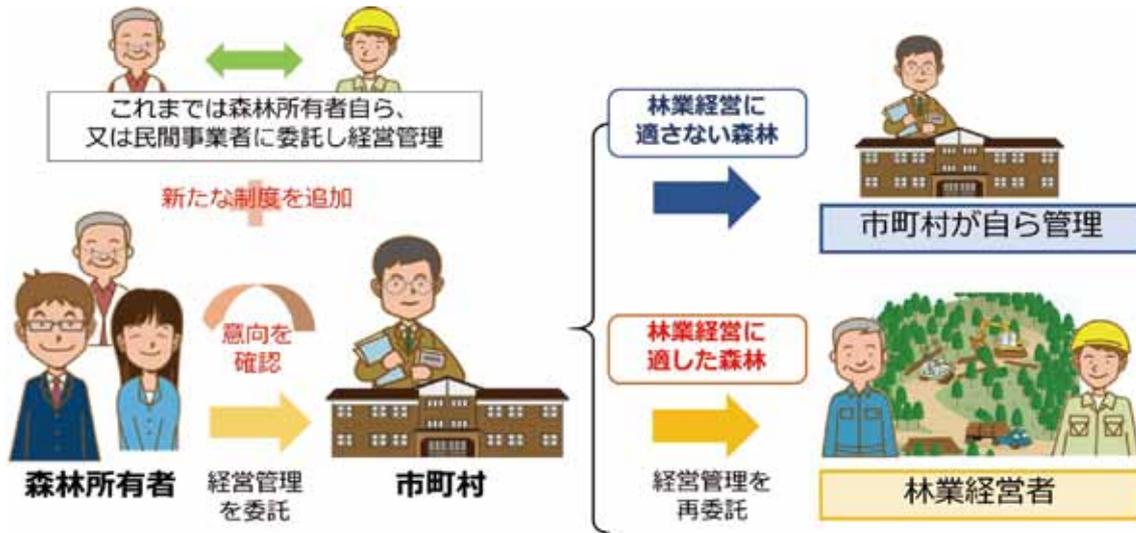
特集

森林経営管理制度の 取組状況について

～動き出した森林シューセキ！～

1. はじめに

本年4月に「森林経営管理法」が施行され、「森林経営管理制度」がスタートしました。



森林経営管理制度の概要

「森林経営管理制度」は、手入れの行き届いていない森林について、市町村が森林所有者から経営管理の委託（経営管理権の設定）を受け、林業経営に適した森林は地域の林業経営者に再委託（経営管理実施権の設定）するとともに、林業経営に適さない森林は市町村が公的に管理（市町村森林経営管理事業）をすることで、地域の林業の活性化や森林の適切な管理を図っていくことが期待されることです。

今年度は、森林経営管理制度が始まった初年度ということで、森林所有者に経営管理の取組状況や今後の意向を確認する「意向調査」に取りかかることから始まります。各地で地域の実情に応じた取組が展開されつつありますので、市町村における取組を中心として、その一部を紹介させていただきます。

2. 市町村における取組

森林経営管理制度において市町村が担う役割は非常に大きなものとなりますが、それぞれ森林経営管理制度に対する経験がない中、市町村内の組織体制の強化や、地域との連携等を通じて本制度の運用に当たっています。ここでは、全国の取組事例の中から、工夫を凝らしながら着実に制度に取り組んでいる（1）秋田県大館市、（2）茨城県常陸太田市、（3）埼玉県秩父市、（4）三重県津市の取組を紹介します。

① 秋田県大館市

秋田県大館市では、新たに4名の専門員を雇用するなど、市の組織体制の強化を図ってきました。昨年度から森林経営管理制度への事前準備を進め、本年6月には公民館単位での座談会を開催するなど、全国に先駆けた取組が進められています。同市は、既存の施業団地や市有林との組み合わせにより一層の施業集約化が図られるよう、市内の森林の区域分けを行っており、あらかじめ当面5年間の実施方針を決めています。本年はモデル的に2地区419haで意向調査に取りかかりました。意向調査の結果、10月末での回答率は約7



大館市での市民向け座談会の様子



協議会「常陸太田市明日の森林を考える会」の様子



広報誌で森林経営管理制度を特集
(令和元年7月広報ひたちおた)

割で、そのうち市に経営管理を委託したいとの意向を示した森林所有者は約4割でした。比較的大きな面積を所有する方は自ら経営管理を行うとの意向を示すほか、所有者の所在が分からず意向を確認することができない箇所があるなど、面的なまとまりをもって集約化することの難しさに直面しつつも取組が行われています。本年度中には経営管理権の設定まで進められるよう、現在課題等を整理しているところです。

(2) 茨城県常陸太田市

茨城県常陸太田市では、国（茨城森林管理署）や県、大学教授や植物園長、自伐林家等を会員とした協議会「常陸太田市明日の森林を考える会」を設置するなど、地域の関係者と対話を重ねながら森林経営管理制度の運用や森林環境譲与税の活用方針の議論を進めています。同市は本年4月より、新たに専門職員を1名雇用し、林政係を設置するなど市の組織体制の強化を図ってきました。市の広報誌を通じて、森林経営管理制度を周知するとともに、公民館単位で説明会を開催するなど、森林所有者に向けた周知も進めています。今年度中にはモデル的に1地区で、森林所有者への意向調査を行い、経営管理権集積計画の作成まで検討しているところです。

(3) 埼玉県秩父市

埼玉県秩父市においては、市に経営管理を委託したい旨森林所有者から申出のあった森林について、6月10日付けで全国第一号となる経営管理権集積計画の公告（経営管理権の設定）を行いました。この森林については、年内には、林業経営者への再委託（経営管理実施権の設定）や森林環境譲与税を活用した市による森林整備に取りかかれるよう準備を進めているところです。また、これに続いて、約200haの森林について森林所有者への意向調査を実施しており、現在、市への経営管理の委託を希望する旨の回答のあった70haの森林について、経営管理権集積計画の作成等を検討



集約化推進室の開所（秩父市長と集約化推進員）



秩父地域の連携体制

秩父地域では、秩父市を中心として、1市4町（秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町）や、県森林組合、木材協同組合等からなる「秩父地域森林林業活性化協議会」を活用し、森林経営管理制度を推進しています。同協議会の中に、新たな制度に取り組むための分科会（集約化分科会）を設置し、2名の職員（集約化推進員）を配置するなど、意向調査や境界確認等の業務を実施する体制を整えました。各市町は分科会と連携し、また、秩父市のモデルケースを活用するなどして、経営管理権集積計画の作成等を進めていくこととしています。

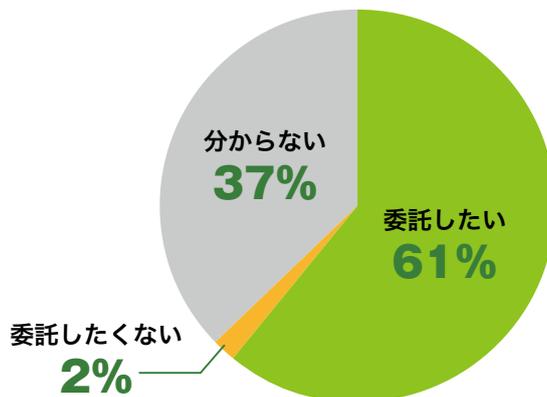
(4) 三重県津市

三重県津市では、昨年度、林業関係の職務経験者を1名採用するとともに、本年度、県の林業技術職OB1名を非常勤参与として採用するなど、林業担当部署の組織体制の強化を図ってきました。5月からは市内各地域で制度説明会を開催計8回しており、そこでのアンケート結果から、回答者の約6割が市への経営管理の委託を希望していることがわかりました。説明会の会場でアンケートを実施することで、参加者の意向を着実に捉え、次の取組に活かそうという取組が行われています。

また併せて、8月から3千3百ha（森林所有者2千5百人）の規模で意向調査を開始しており、回答結果は説明会でのアンケートと同様に、市に経営管理を委託したいとの回答が多い傾向にありました。今後は、回答結果を踏まえ、経営管理権

説明会でのアンケート集計結果（8回分）

Q. 今後、市に経営管理を委託したいですか

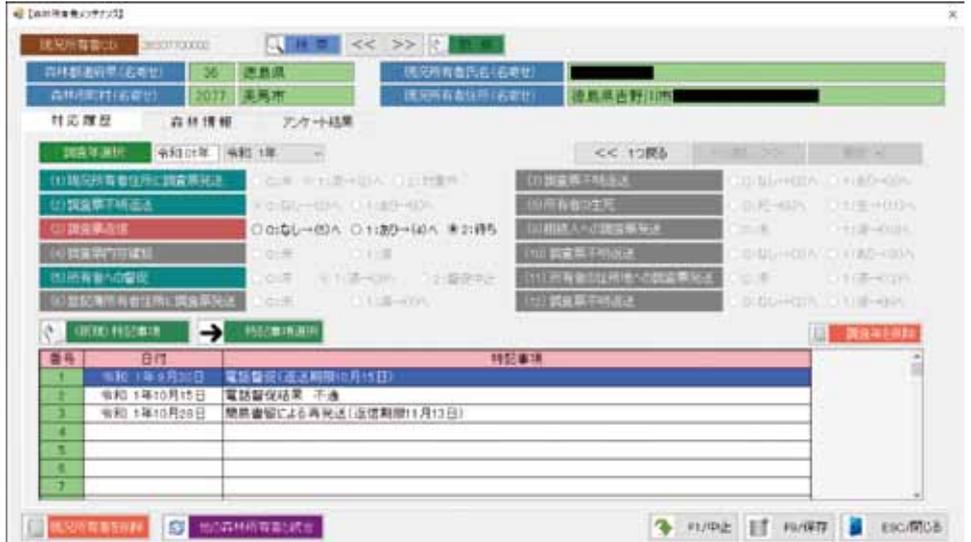
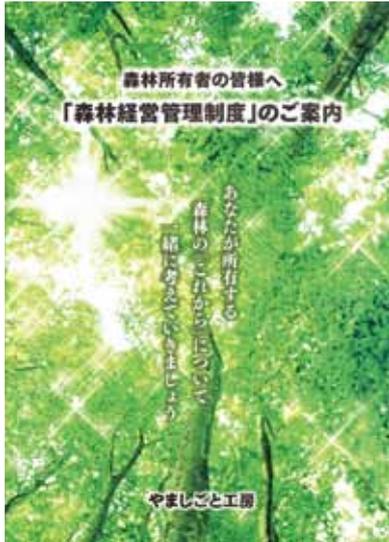


津市での説明会時のアンケート結果

3. 都道府県等の取組

を設定する箇所を検討し、境界明確化等の事前準備も行っていくこととしています。

都道府県においては、市町村が森林経営管理制度に円滑に取り組むことができるよう、森林情報の高度化等の基礎的情報の整備・提供、都道府県レベルでの支援組織の設置、都道府県で雇用した地域林政アドバイザー等の市町村への派遣、研修会の開催等を通じた市町村支援に取り組むこととしており、47の全都道府県で取組が進められてい



「やましごと工房」の市町村支援ツール（所有者向けのチラシと森林経営管理業務支援システム）



説明会で所有者からの質問に答える静岡県森林組合連合会の担当者

ます。

徳島県では、県の現地機関と美馬市、つるぎ町の3者で新たに「やましごと工房」という団体を立ち上げました。やましごと工房は、意向調査の実施方針の作成や意向調査の実施、経営管理権集積計画案の作成など、森林経営管理制度全般の業務を受託することとしており、今年度は、美馬市、つるぎ町でそれぞれ1千7百ha規模で意向調査に取りかかっています。今後は、法人化、事業範囲の全国展開も視野に森林経営管理制度に積極的に参画していくこととしています。

そのほか、民間団体でも、これまでの森林・林業に係る知見・ノウハウを活かし、市町村の取組を支援する動きが見られます。例えば、静岡県森林組

合連合会では、森林経営管理制度の取組に係る全体構想の作成や意向調査の実施などの市町村の支援に当たっています。本年度は静岡県内の10市町の業務を受託しておりますが、本年度の経験も活かしつつ、体制を強化していくこととしています。

4. 今後に向けて

林野庁では、森林経営管理制度を円滑に運用いただけるよう、市町村等に対して技術的助言として標準的な事務の進め方や基本的な判断基準などを示しているところです。一方で、この制度は各市町村が地域の実情に合わせて取組を進めることができる制度でもあることから、制度の趣旨等を踏まえて、地域にとって最善の方法で計画的に進めていただきたいと考えています。今回紹介した地域におきましても、市町村の組織体制を強化するところや、地域で協議会を立ち上げて進めるところなど、体制準備だけをみてもそれぞれの工夫が見られます。

このように、市町村においては森林経営管理制度の活用に向けて様々な試みが見られます。林野庁としては、引き続き、都道府県等と連携しながら、研修会の実施や先行事例の情報提供等を通して市町村の実施体制の構築をサポートしていくこととしています。これらを通して、この制度の運用ができる限り早期に軌道に乗り、経営管理が行われていない森林が地域から解消され、地域の林業の活性化や森林の適切な管理を実現していきたいと考えております。

子どもたちの「生きる力」を育む 森林環境教育の輪を広げるために

学校の森 子どもサミット



学校の森・子どもサミット

「学校の森・子どもサミット」は、子どもたちの生きる力を育む森林環境教育の輪を全国に広げることがを目的に、本サミットの前身となる「学校林・遊々の森 全国子どもサミット」（平成19年度から平成25年度まで）の後継行事として、平成26年度から開催しており、今年で6回目（前身から含めると通算13回目）となりました。

今年も、豊かな森林を次世代に大切に引き継いでいくことを目指し、森林環境教育にも熱心に取り組んでいる長野県伊那市において11月2日に開催し、会場となった伊那西小学校体育館には、学校林など身近な森林を活用した教育活動や体験活動に取り組む関係者など、全国からおよそ300人が集まり盛大なイベントとなりました。

今回のサミットは3部構成で行われ、第1部は「子どもサミットのこれまで」として、4名の先生による小学校などで取り組んできた総合学習などの事例発表に加え、伊那西小学校においても、隣接する学校林を活用した授業内容の発表がありました。第2部では「森で起きたこと・森と触れる効能」と題して、第1部の発表者と、幼児期に自然保育・野外保育を経験した高校生、その保護者、そして来場者も交え、森が子どもの育ちにどんな意味、効果があったのか等についてトークセッションが行われました。

第3部では「森がぼくらの教室だ」と銘打ち、森に関する伊那市の取り組みや、森と近づくアイデア等を映像で紹介したのち、世界的バリトン歌手とピアニスト、地元の伊那中学校生徒徒によるミニコンサートが行われ、会場は感動と柔らかい雰囲気にも包まれ



ました。
人それぞれに森との接点があり、発想の転換や少し視点を变えるだけで森と近づくことができることを実感したサミットとなりました。

森JOY

「学校の森・子どもサミット」の連携イベントとして、翌日11月3日に伊那市「市民の森」において、実際に森と近づく体験、森への入口を体感するイベント「森JOY」が開催されました。

森の気持ちよさや楽しさを体験しながら、森の恵みを味わったり、学びを共有したり、森と人との関係をもう一度見つめ直す良いきっかけとなるイベントとなっております。多くの家族連れで賑わっていました。

<http://midorina.jp/>



サミットのこれから

「学校の森・子どもサミット」は、全国の小学生による事例発表のほか、小学校の教員を対象とした分科会等、小学校の活動を対象にこれまで開催してきました。

今後は、小学校就学前の幼児期の活動も対象に含め、教育関係者、森林関係者、NPO団体等を対象に、地域と行政が連携して森林環境教育、自然保育・野外保育をどのように促進していくか等を共有・発信するイベントに衣替えして開催します。





みやざき林業大学校

ひがしうすきぐんみさとちょう
宮崎県東臼杵郡美郷町

修学期間：1年間
定員：15名程度

宮崎県では、林業担い手の確保・育成を図るため、平成26年より「みやざき林業青年アカデミー」と称した各種研修を実施してきましたが、林業関係者はもとより、市町村や各方面から、さらに内容を充実させた林業大学校の開講が強く要望されました。

このため、林業事業体や市町村等のニーズを的確に踏まえ、今年4月にこれまで取り組んできた研修の質的・量的な充実とともに、募集人員の増加や対象年齢の上限引き上げを行い、実践的な人材育成を行う「みやざき林業大学校」を開講しました。

1年間の「長期課程」では、林業・木材産業に精通した即戦力となる未来のリーダーを育成するため、全国最多となる16の資格取得や120日に及ぶ実習など、従来の研修に次のカリキュラムを拡充しました。

- ①本県林業の歴史や先進性を学び林業への深い愛着を醸成
- ②コミュニケーション力やリーダーシップ等を身に付け人間力の向上
- ③林業の基礎からICT等最新技術までの幅広い内容
- ④インターンシップの充実
- ⑤一層の低コスト化や林業労働安全衛生など本県林業の課題解決への取組

さらに、産・学・官が一体となった就学・就業・定着を見据えた支援や指導協力など、一貫したオールみやざきの支援体制（令和元年11月現在85団体）を構築したところです。

このほか、本校では、就業中の現場技能者・木材加工技術者の専門技術の一層の向上を目指す「短期課程」や、林業経営者の能力アップにつながる「経営高度化課程」、林業振興や地域活性化のための「リーダー養成課程」、青少年や一般県民を対象にした森林・林業教育の「公開講座」の計5コース（年間受講者400名）により、幅広く総合的な人材育成に取り組んでいます。



みやざき林業大学校（長期課程）令和元年度研修生



育苗実習



製材・加工実習



刈払機操作実習

人材育成の現場から



くまもと林業大学校

くまもとしちゅうおうくろくろかみ 熊本県熊本市中央区黒髪(県北校 座学拠点) / くまぐんいつきむらこう 熊本県球磨郡五木村甲(県南校 座学拠点)

修学期間：1年間
定員：1学年20名

熊本県は、平成31年4月に「くまもと林業大学校」を開校しました。

これまで様々な研修を各対象者向けに実施していましたが、「研修の全体像が見えにくい」、「自立や定着を図るためのカリキュラム等が不足」などの課題を解決するため、「くまもと林業大学校」として一元化を図り、カリキュラム等の充実を図りました。

この林業大学校は、『くまもとの森林・林業を守りつなぐ』という人材育成方針のもと、3つの研修コースに分けて実施しています。

一つ目は、「①林業体験・学習コース」です。県内に5校ある林業系学科の高校生や女性の担い手を対象に林業機械操作学習などを行っています。また、広く一般の方を対象にチェーンソー目立て等の公開講座を実施しており、キャンセル待ちが出る程の人気です。これらのコースで、森林への理解や林業の魅力を広く伝えていきます。

二つ目は、「②自伐林家育成コース」です。熊本県は、22グループ(会員数417名)の地域の特色を生かした活動を行う林業研究グループや、地域を守り育てる経営を行う自伐林家の方々が多く存在します。この方々が講師となり、一般の方が自伐林家になるための講座を実施しています。

最後が「③林業従事者・経営者育成コース」です。林業に必要な技術と現場力を身に付けて即戦力となる人材を育成する長期課程では、県内外から17名の生徒が元気に学んでいます。この長期課程では、県の林業技術職員や県内外の林業・木材関係者等が講師となり、一丸となって講義・実習を行っています。スマート林業を意識したICT技術やJLCトレーニング研修^{*}、さらには急峻な地域に必要な索道技術などの林業技術が習得できるほか、インターンシップの充実、就業した先輩方からの心得講義、林業魅力ワークショップなどを盛り込み、カリキュラムを充実・強化しています。さらに、経営者向けの講座では、林業経営のトップリーダーを育成すべくゼミ講座やワークショップなどの実践形式で取り組んでいます。

このように、本県では、次世代をリードする林業担い手の確保・育成強化を図っています。

^{*}林業技術及び安全作業意識の向上等を目的に開催されている日本伐木チャンピオンシップ(JLC)の競技種目の意図を理解して実践するための講義及び実技。



入校式の状況



くまもと林業大学校の研修コース



実習フィールドでの研修状況(伐倒実習)



実習フィールドでの研修状況(伐倒実習)



就業した先輩方からの心得講義



写真2 台風による風倒被害



写真3 当時の十勝三股の風景

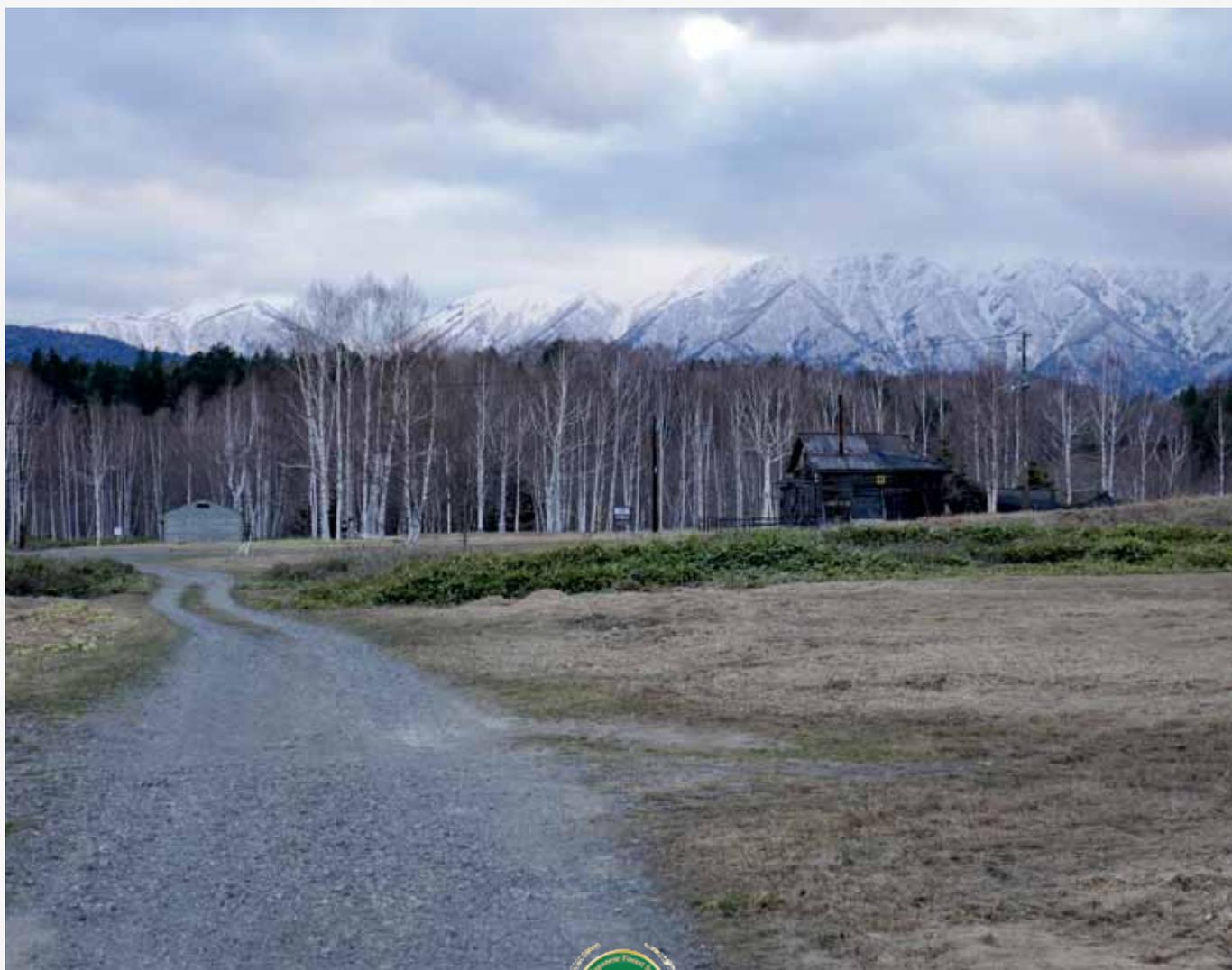


写真7 林業集落跡地から原生的山岳景観を望む



日本森林学会による

日本の林業遺産を知ろう!

第 **20** 回 ^{みつまた} 十勝三股の林業集落跡地と森林景観

国立研究開発法人 森林総合研究所 ^{やまき かずしげ} 八巻 一成



写真1 三国峠から俯瞰した樹海景観



写真4 林業集落跡地の現況



写真5 森林鉄道の盛り土および土場跡



写真6 音更森林鉄道跡



写真8 残存する森林鉄道修理庫（遺産対象外）

北海道の屋根と言われる大雪山を源とする石狩川を上流へと分け入った先に、三国峠があります。この峠は文字通り、石狩、十勝、北見の3つの地域の分水嶺に当たります。石狩から十勝側へと向かう峠のトンネルを出ると眼下に見えるのが、わが国屈指の樹海景観が広がる三股盆地です（写真1）。人跡未踏と思われるような広大な樹海にかつて日本最大級の林業を主体とした集落が存在したとは俄かには思えない光景です。

三股盆地の原生林は1936（昭和11）年の暴風被害に加えて、北海道林業史上特筆すべき未曾有の風倒木被害を全道にもたらした1954（昭和29）年の洞爺丸台風によって、甚大な風倒被害を被りました（写真2）。帯広営林局管内における風倒被害の57

%（m当り）が、当地域を含む上士幌営林署管内で発生しましたが、風倒木を搬出するために大活躍したのが音更森林鉄道です。風倒木処理で急増した人口は、昭和20～30年代の最盛期にはおよそ1,500人に達しました。こうした当時の状況は、北海道における典型的な林業集落の様相を呈していた一方、林業を主体として成立した集落の跡地としては日本最大級の規模を誇っていたのです（写真3）。洞爺丸台風の風倒木処理が一段落した後は、伐採搬出事業・集落ともにその規模を急速に縮小させ、現在、十勝三股に居住する住民は僅か2世帯となりました（写真4）。

広大な集落跡地には森林鉄道や土場の跡が残り、往年の活況が偲ばれます（写真5）。また、森林鉄道跡（写真6）の先には伐木事業所跡が残ります。対象範囲の林分は明治期からの原生林伐採の影響を受けている一方、風倒木処理を伴う当時の森林施業の影響も強く受けており、風倒被害を受けた森林の推移を見るために設定された風倒被害地固定試験地は、その後の変化を知る上で重要なものとなっています。こうした林業集落跡地や当時の森林施業の強い影響下にある森林景観と、東大雪山の原生的な森林景観とがコントラストをなす様は、原生林の伐採とともに歩んできた北海道の開拓および林業の歴史を端的に示しており、自然と人為が対をなす特異な文化的景観でもあることから（写真7）、国有林約5,286haが「十勝三股の林業集落跡地と森林景観」として林業遺産に認定されました。

なお、集落跡の中心に残る森林鉄道修理庫は、林業集落の記憶を呼び起こすランドマークとなっています（写真8）。2017年初春の大雪で建物の半分が倒壊してしまいましたが、現在修理庫を所有する環境省の取り扱い方針がまだ未定のため、今回の遺産対象には含まれていません。こうした中、森林鉄道修理庫を地元の人々の宝としてなんとか残せないかと、地元有志が保存活動に取り組んでいます。そんな一人、上士幌地域の宝探しの会事務局長の井上智彦氏は、「修理工場跡は）三股に人が暮らしていたことを知る唯一の生き証人。その価値を見直し、観光資源として活用していく意義は大きい」と語ります。十勝三股の林業集落跡が、地域の人々の宝であり続けて欲しいものです。

持続的な森林経営に向けた低コスト造林への取組 〜目指せ下刈りゼロ〜

九州森林管理局 森林技術・支援センター

はじめに

九州森林管理局では、持続可能な林業を確立する上で不可欠となっている造林コストの低減等を目的として、熊本南部森林管理署管内に「低コスト造林実証団地（次世代造林プロジェクト）」（以下「実証団地」という。）を平成28年度に係関係機関等と連携し設定しました。

試験地設定の背景

本プロジェクト立ち上げの背景として、木材価格の低迷等により山元に還元できる資金が減少していることに加え、シカによる森林被害が激増し、再造林に要するコストが大きな負担となっていることが挙げられます。

このような課題に対し、当実証団地において関係機関（宮崎大学農学部、国立研究開発法人森林総合研究所（九州支所）及び林木育種センター九州育種場）、九州森林管理局が連携し、平成29年3月より低コスト造林等を目指した試験研究とその成果の普及に取り組んでいます。

実証団地の概要

実証団地の設定場所は、熊本県人吉市に所在する熊本南部森林管理署管内の西浦国有林で（図1）、苗サイズや樹種、品種、植栽密度等の条件によりAからKまで11のゾーン（試験区）に分け、九州森林管理局が単独で実施する試験地や各林業研究機関が共同して取り組む試験地（図2）を設定しました。その成果について毎年度4月に経過報告会を開催しています（写真1）。さらに、当実証団地の取組を広く民有林等へ普及するため積極的に視察等（写真2）を受け入れており、平成30年度は、17団体、約400名の民有林等関係者が訪れ、今年度は森林経営管理制度に基づき、林業経営者等を対象に現地検討会をこれまで3回開催しています。

造林コスト低減への取組

今回は、この実証団地の中のAゾーン（獣害対策比較ゾーン）における取組についてご紹介します（図3）。

この試験地では、トータル的な低コ

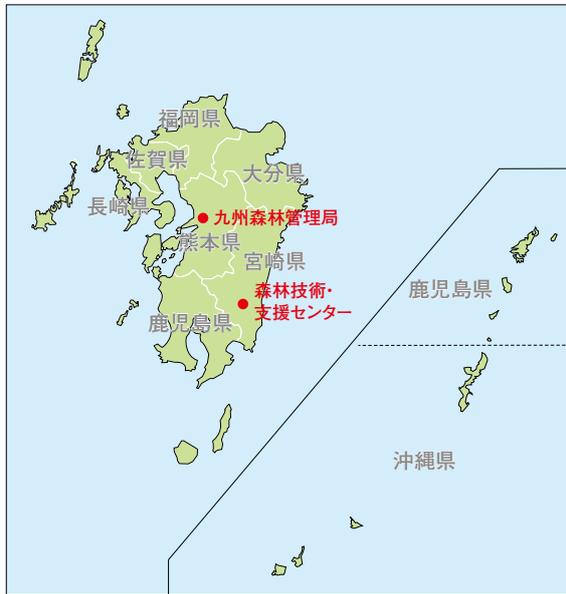
「管内概要」

九州森林管理局は、九州・沖縄8県に所在する森林の約2割（約54万ha）に相当する国有林の管理経営を担っています。

九州の国有林は、九州中央山地から雲仙、阿蘇、九重、霧島、桜島といった火山地帯、対馬や五島、屋久島、奄美、南西諸島といった離島まで、南北約1,200kmの広範囲に分布しており、多様な森林生態系を有しています。

また、九州は温暖多雨な環境下のため、スギやヒノキの生育にも恵まれており、日田や小国、球磨、飲肥などの歴史的にも有名な林業地が発展してきた地域でもあります。

森林技術・支援センターでは、森林の有する公益的機能発揮等に対する国民の要請に対応しつつ、民有林経営への普及を念頭に林業の低コスト化等に向けた技術開発等の推進に努め、地域林業の振興に寄与することとしています。



所在地	熊本県熊本市西区京町本丁2番7号		
区域面積	419万ha	うち森林面積	277万ha
国有林面積	54万ha		
管轄区	8県（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）		

局の基礎データ

試験地の概要

- ・面積：10.58ha
- ・標高：約500m
- ・前生樹：ヒノキ
- ・地位等級：13等級
- ・傾斜：緩
- ・土性：ほこうど 葡行土
- ・方位：北西

試験地の特徴

- ①九州自動車道人吉ICより15km(約40分)。
 - ②事業地まで舗装済。中型バス可。駐車場有。
 - ③その他次代検定林、コウヨウザン試植箇所等も併設。
- 様々な試験区としてだけでなく、団地化することで民国含めた各種の研修や視察箇所としてのフィールドの付加価値も併せ持つように設定。



かみなぎのまち
熊本県人吉市上永野町
西浦国有林21ろ林小班
(熊本南部森林管理署管内)

主な苗木



スギ中苗



スギ新品種



早生樹

図1 低コスト造林実証試験地の概要

スト造林を実証することを目的とし、低コストで効果的な獣害対策の検証と、スギ中苗(苗高70〜100cm程度の苗木)を使用した下刈り回数の削減の検証を行っています。

獣害対策として、3種類の単木保護資材(生分解性のツリーシェルター、チューブ型のツリーシェルター、ネットタイプ)を設置し、比較・検証しています。また、スギ苗木についてはコテナ中苗と裸普通苗の特定母樹をそれぞれ使用し、原則「無下刈り」によるその成長状況を比較・検証しています。

最後に

この実証団地は比較的交通の便もよく、造林・保育の各課題に対応した試験を各林業研究機関等が共同で設定し、試験地を設定して3年目に入ったところですが、特定母樹スギ中苗の使用によりシカの食害を回避できる高さ(150cm)を2年目で上回り、現在ではスギの樹形(形状比)も安定し順調な生育をしております。特定母樹のスギ中苗と単木保護資材の併用により、下刈りゼロの入口が見えてきたように思えます(写真3)。



た試験地として視察することができ九州管内で唯一の場所となっております。今後、各課題の試験・研究の成果が徐々に現れてくる状況であり、得られた成果等を広く民有林に情報公開し、低コスト高効率施業の普及・定着を目指すことにより、持続可能な林業の確立に取り組んでいきたいと考えています。



写真1 平成31年度経過報告会の様子



図2 実証試験地内の各ゾーンの配置図



写真3 A 獣害対策比較ゾーンのスギ3年生植栽木



図3 A 獣害対策比較ゾーンの試験内容



写真2 林業事業体の現地視察の様子

第58回農林水産祭

農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくために、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催して、昭和37年から実施しており、今年で58回目となります。

農林水産祭では、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞された方の中から、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞が選ばれます。

林産部門では60の出品財の書類審査及び現地審査を経て、天皇杯に谷口洋一郎氏、希子氏まれこ（夫婦での受賞）かわかみぐんしべちやちやう（北海道川上郡標茶町）、内閣総理大臣賞に芳賀隆氏、幸子氏さちこ（夫婦での受賞）しもへいぐんやまだまち（岩手県下閉伊郡山田町）、日本農林漁業振興会会長賞に須藤義朗氏よしろう（栃木県大田原市）が選出されました。

天皇杯

谷口 洋一郎氏・希子氏（北海道川上郡標茶町）

～厳しい気候条件下で地元の森を育てる夢に挑戦を続ける苗木生産者～

ご夫婦での受賞となった谷口洋一郎氏・希子氏は、標茶町と弟子屈町てしかがちやうに苗畑を有し、カラマツ、トドマツを中心として年間約70万本の規模で苗木生産をしており、釧路管内の生産量の約7割を占めています。

気候条件が異なる各々の苗畑で樹種、季節に合わせて苗を移動させて床替えすることや、床替え回数を1回から2回へ増やして発根を促すことなどにより手間をかけて生産した苗木は、活着率が良く安定した品質で購入者からの評判も良好です。

また、成長がよく新たな造林樹種として期待されるクリーンラーチ（グイマツぐいまつ精英樹「中標津5号」とカラマツ精英樹の交配品種）の苗木生産を早期に行い、平成30年度からは成長に優れた種苗の生産に取り組む民間の特定増殖事業者として認定を受け、クリーンラーチの採種園を造成しています。

「地元の種を地元で植えて、地元の森を育てる」という夢のもと、手間をかけて良質な苗木を生産しており、多くの森林で主伐・再造林の時期を迎える中、クリーンラーチ採種園への挑戦など更なる発展が期待できます。



内閣総理大臣賞

芳賀 隆氏・幸子氏（岩手県下閉伊郡山田町）

～震災を乗り越え安全・高品質な乾しいたけ作り～

ご夫婦で受賞となった芳賀隆氏・幸子氏は地域を代表する原木しいたけ生産者である父の下で研鑽けんさんを積み、平成25年から経営を譲り受けました。東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、ほだ木9千本を廃棄することになりましたが、国及び県の定めたガイドライン等に基づき栽培管理を徹底し、安全・安心な乾しいたけを生産しています。

露地栽培とハウス栽培を組み合わせた気象条件に左右されにくい独自の栽培技術を確認しており、袋がけを工夫することにより白く亀裂のはっきりとした花柄と身の締まった高品質な乾しいたけ生産を行っています。

さらに、風評被害等によりしいたけ価格が下落し、多くの販路が失われましたが、道の駅やデパート、各地の試食・販売会に出向き、消費者のニーズに対応した商品の出荷などにより需要の拡大に努め、生産量の回復と経営力の向上に取り組んでおり、しいたけ産地の再生や地域の活性化のモデルとして更なる活躍が期待できます。



～伝統を守り、次世代の担い手を育てる林業家～

須藤氏は、約200年前の江戸時代後期に林業経営を始めた先祖から数えて5代目にあたり、所有山林の集約化や路網整備を先祖代々積極的に行ってきたことで効率的な経営基盤が築かれています。木材価格が低迷する中、家業である製茶業等との複合経営を行うことで、収益の安定性を確保しています。

所有山林のうち、林齢80年以上の林分は約9haあり、これらの林分から注文材として長尺材や大径材の出荷を行っています。さらに、約20年前から葉枯らし材に取り組んでいます。葉枯らしとは、伐採後、枝葉がついたまま林内乾燥することで、発色が良くなり、材の付加価値を高めるものです。こうした高付加価値材の生産は、優良材と評価される「八溝材」の伝統ある特徴をアピールし、ブランド力を向上させています。

また、平成19年から平成29年まで大田原市森林組合の代表理事組合長を務め、大型の高性能林業機械の導入による高効率作業システムの構築や森林施業の集約化、人材育成に力を入れるなど、森林組合の経営改善に尽力されました。こうした功績とともに、現在も林業研究グループ活動に取り組み、地元高校生や小学生に対する体験イベントを継続的に実施しており、次世代を育てる地域林業の指導者として活躍しています。



11月1日(金)、2日(土)
「第58回農林水産祭・
実りのフェスティバル」
(京都豊島区)

毎
「実りのフェスティバル」が開催されました(京都豊島区)。

林野庁ブースでは「木づかい運動でウッド・チェンジ！〜使ってみよう！木を見直そう！〜」と題し、木を使うことの意義や森林のサイクルなどについてパネルで紹介し、国産材を使った日用品や木のおもちゃなどを展示しました。ブースを訪れた親子連れをはじめ多くの方々が、様々な木製品の手触りや木の香りを楽しむ姿が見られました。特に、樹のブックカバーや和柄のコースターなどに多くの方が興味を示されていました。

会場内は、各都道府県や農林水産関係団体のコーナーで郷土特産物の展示や販売等が行われ、終日多くの方々が賑わっていました。



「Forest Style ネットワーク」立ち上げ!!

—「森林サービス産業」の創出・推進に向けて—

「働き方改革」をはじめとするライフスタイルの変革に伴う社会的ニーズの対応など、様々な可能性を秘めた「森林サービス産業」への期待が高まっており、本年2月に開催した「キックオフ・フォーラム」*では、都市から山村に至る民間企業や団体、地方自治体から多くの方の参加があり、「森林サービス産業」への期待やその創出・推進に向けた課題等について意見が交わされました。

地域が主体となり持続可能な取組であることが求められる「森林サービス産業」は、健康、観光、教育などの分野で森林空間を活用して、山村地域における新たな雇用と収入機会を生み出し、山村振興・地方創生に貢献することが期待されます。このためには、需要者と供給者、さらにはこれまで森林と関係が希薄であった異業種・異分野の方との繋がりが必要不可欠です。

こうしたことから、林野庁では「森林サービス産業」の創出・推進に関心のある様々な分野の方々が集い、意見交換や情報共有等を図ることを目的とした「Forest Style ネットワーク」を立ち上げ、11月19日(火)に林野庁でキックオフ・イベントを開催しました。

(※詳しくは2019年4月号を参照下さい)

「Forest Style ネットワーク」とは?

「Forest Style ネットワーク」は、民間企業、団体、及び研究機関等に所属する有識者等で構成し、事務局は林野庁森林利用課が務めます。ネットワークでは、林野庁と会員間相互により優良事例をはじめ「森林サービス産業」の創出・推進に係る様々な情報共有を図り、具体的な産業の創出の動きを後押しするとともに、同ネットワークが近い将来に民間団体等が主体となった「森林サービス産業」のプラットフォームに移行していくことを目指します。

「Forest Style ネットワーク」キックオフ・イベント

キックオフ・イベントには参画団体等を中心に約100名の参加がありました。本郷林野庁長官の挨拶、木下山村振興・緑化推進室長による趣旨説明が行われ、その後、長野県、静岡県より基調報告として森林の健康利用などの先進的な取組の紹介、2017ミス日本みどりの女神である野中葵氏、2019ミス日本みどりの女神である藤本麗華氏から森林への思いや「森林サービス産業」に関連する資格取得などの活動報告があり、「森林サービス産業」の創出・推進に向けて機運の醸成を図りました。



キックオフ・イベント会場の全景



藤本麗華氏(2019 ミス日本みどりの女神)による活動報告の様子

「Forest Style ネットワーク」の詳しい案内&参加の申込みについて

「Forest Style ネットワーク」への参画団体等の募集は通年で実施していますので積極的な参加をお待ちしています(※12月3日時点で63団体等(うち、10自治体、4個人)が参画)。詳しい情報については、以下の林野庁のホームページをご覧ください。



イベントの最後に行われたネットワーク参加者の皆様との記念撮影



▲表彰式の様子



▲エキシビジョンとして伐木デモンストレーションの挑戦



みどりの 女神が行く!

藤本麗華 (ふじもと れいか)

出場者の絆に感動した 「日本伐木チャンピオンシップ」

日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取が2日間に渡って開催されました。

林業は普段は森の中なので、目にする機会の少ないお仕事姿を見ることができません。私の林業界のイメージを大きく変えてくれました。

種目は伐倒競技、枝払い競技、ソーチエ着脱競技、丸太合わせ輪切り競技、設置丸太輪切り競技。

私は出場者にインタビュをする役目でしたが、林業の世界に飛び込んだ理由、林業への熱い思い、未来のためにカッコいい林業を広めていきたいという心強いメッセージを多くの方から聞けたことは、素直に感動いたしました。

もう一つ感動したことは林業界の絆がとても深いことです。

選手同士が楽しく交流しているのはもちろん、競争相手の出場選手を応援する姿勢、そして審査員に講評を聞きに行く向上心など、競技以外のところでも感動しました。

最終種目の枝払いとはとにかく大盛り上がりでした。安全第一に、でも早く枝を切り落とすということで応援側もドキドキしながら見てました。スリ

ル感がたまりません。

私はこの1年、チェーンソーのさまざまなパフォーマンスを拝見して、現場の持つ持っている資格を私もいつか取りたいと思ってしまうました。

すっかり、私自身も森林や木の魅力に虜になっているなと感じた瞬間でした。

「Forest Style ネットワーク」では 17年度みどりの女神の野中葵さんと共演

Forest Style ネットワークのキックオフイベントにて、17年度のみどりの女神野中葵さんと順番に報告発表をしました。野中さんは森林ヨガインストラクターの資格を取得し現在インストラクターとしても活動しています。私はクア

オルト・テラポイント[※]の資格を11月に取得したばかりです。私も今後活動していきたいと思っっているのですその熱意をぶつけて参りました。

クアオルト健康ウォーキングはまだあまり世には知られていません。無理のない運動強度で、体表面温度を調節することによって運動効果も倍にあがります。

心拍数と血圧測定を行いながら今日の自分の体調と向き合うことで、年齢

に関係なく、森林を通じて心も身体も健康になれる。これは若い同世代にも強く効果があり、クアオルト健康ウォーキングを推進していきたいと思えます。

特に願うことは、多くの人に森に足を運んでもらい、澄んだ空気を吸ったり、綺麗な景色を見たり、自然の音を聞いたりしながら癒しの空間を楽しむこと。そのきっかけとなるようなお手伝いがしたいです。野中さんと共通の思いはそこにあります。

みどりの女神として活動任期はもうすぐ終わってしまいます。ですが森林に関わっていくスタートラインにもうすぐ立てそうなのは、みどりの女神になれたからです。

森林や木の魅力を沢山の方々から教えて頂き、貴重な経験をさせて頂いたからです。感謝の気持ちを忘れず残りの活動も頑張ります。



▲みなさんと



▲活動を通じてクアオルト・テラポイント資格を取得したことを報告しました

[※]クアオルト・テラポイント
クアオルト(ドイツ語で療養地の意)を専門的な知識をもって案内できるガイドのこと(テラポイントはドイツ語で療法士の意)。

木材利用優良施設 コンクールの 受賞施設決定!

今年度、新たに国土交通大臣賞、環境大臣賞を創設

木材利用の拡大や特色ある木材利用に資する施設を表彰してきた木材利用優良施設コンクール（木材利用推進中央協議会主催）では、木材利用の一層の推進を図るため、昨年度創設された内閣総理大臣賞に加え、今年度新たに国土交通大臣賞及び環境大臣賞が創設されました。優れたデザインや新しい木材利用技術を駆使した素晴らしい施設が多数集まり、11月1日には木材会館（東京都江東区）にて表彰式が盛大に開催され、各賞の授与が行われました。

内閣総理大臣賞



屋久島町庁舎（鹿児島県熊毛郡屋久島町）：地元の木材をふんだんに使った木のぬくもりに包まれる庁舎

農林水産大臣賞



兵庫県林業会館（兵庫県神戸市）：ガラス越しに見られるCLTが柔らかな都市景観を形成（写真提供：株式会社竹中工務店）

国土交通大臣賞



おりづるタワー屋上展望台「ひろしまの丘」（広島県広島市）：ビルの屋上展望台に広がる“憩い”の木質空間

環境大臣賞



こうなん 香南市総合子育て支援センター「にこなん」（高知県香南市）：木の香りとぬくもりに満ちた天井高4mの大空間

林野庁長官賞



PARK WOOD 高森（宮城県仙台市）：2時間耐火集成材やCLT耐震壁等、新技術を駆使した我が国初の高層集合住宅

林野庁長官賞



道の駅ふたつ（秋田県能代市）：内装、外装に秋田杉等がふんだんに使われた道の駅

林野庁長官賞



日向市役所（宮崎県日向市）：地元産スギを多用した木質感あふれる市庁舎

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは

情報誌 林野

検索